

# 軽トラック用バッテリ取扱説明書

## (充電済)

このたびは弊社バッテリをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この製品は、公称電圧12Vの自動車エンジン始動用バッテリです。その他の用途（農機・建機・産業用車両・小型船舶など）は専用バッテリをお使いいただくか、または販売元にご相談ください。より長くご愛用いただくために、この取扱説明書をよくお読みいただき、お手元に保管のうえ、日常の取扱いにお役立てください。

**安全に関する表示** 使用する人や他の人の危害、物的損害を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことを説明しています。表示内容を無視して誤った使い方をした場合に、人身事故につながる恐れがある事項などを危険、警告、注意の3段階で表示しています。

**危険** 誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示します。

**警告** 誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

**注意** 誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

### 1. 安全上のお願い

バッテリを安全に使用していただくために、バッテリを取り扱う際、次の事項を守ってください。

表示の意味は次のとおりです。



説明書熟読



火気禁止



爆発注意



硫酸注意



メガネ着用



子ども禁止

- バッテリを正しく安全に使用していただくため、本説明書やバッテリ上面(ふた)の注意表示を必ずお読みください。
- バッテリからは水素ガスの発生があります。金属工具などによる①端子と②端子とのショートあるいは火花、タバコの火などの火気のある場所、密閉された場所、水や海水のかかる場所で使用しないでください。バッテリの引火爆発、焼損、損傷及び液漏れによる車両損傷の原因となります。
- バッテリを取り扱うときは、あらかじめバッテリ以外の金属（車体など）に触れて、静電気を逃してください。静電気を帯びていると、スパークによる引火爆発の原因となります。
- バッテリの電解液は、希硫酸です。バッテリを転倒させたり、衝撃を与えて電解液をこぼさないでください。点検時にはゴム手袋、保護メガネを着用してください。電解液が目、皮膚、衣服に付着した時は直ちに多量の水で洗い、特に目に入った場合は多量の水道水などのきれいな水で洗眼した後、速やかに医師の治療を受けてください。失明の原因となります。電解液が口に入るか飲み込んだ場合は、直ちに多量の飲料水をウガイを繰り返した後、多量の飲料水を飲み速やかに医師の治療を受けてください。口内のやけどの原因となります。
- 電解液が皮膚、衣服に付着した場合は、直ちに多量の水で洗い流した後、石けんで十分に洗ってください。やけどや衣服の損傷の原因となります。
- バッテリには電解液が入っていますので、バッテリの取り扱い方法や危険性を十分理解していない子供などに触らせないでください。失明や、やけどの原因となります。

#### 1.1 バッテリの適用範囲

#### 警告

- 車両に適した性能ランクのバッテリをご使用ください。不適当な場合は、大電流が流れで内部が破損し、破裂（爆発）の原因となります。
- バッテリは、連続では周囲温度-15°C~60°C、短時間（2~3時間）では周囲温度-30°C~75°Cで使用できます。この温度範囲以外での使用や保管は凍結や過熱を起こし、破損や変形の原因となります。



TS 248 B

- 1 -

### 3. バッテリ交換時の取扱い

#### 3.1 交換バッテリの選び方

#### 警告

- 取替え用バッテリは、現在の車両に搭載されているものと同一サイズのものと取り替えてください。取替えを誤るとバッテリ内部が破損し、爆発の原因になる恐れがあります。
- 搭載されているバッテリに排気チューブが接続されている車両は、ガスを一括排気する構造の専用バッテリが必要なため、本バッテリは使用できません。こういった車両に本バッテリを搭載すると、車内に水素ガスが充満し外部火点による爆発の恐れがあります。また、有毒ガスが車内に充満する恐れがあります。

#### 注意

- ①端子と②端子が同じ位置のものを選んでください。端子位置の異なるバッテリを取り付けると、車両側のケーブルに異常な負担がかかり、ケーブルが損傷します。なお、型式はバッテリ上面(ふた)に表示されています。
- バッテリが2個搭載されている場合は、同一型式、同等の履歴のものと同時に取替えてください。異なる型式のバッテリを載せた場合や使用開始時期が異なる電池を同一車両において使用すると性能バランスが取れず、寿命が短くなる恐れがあります。

#### 3.2 バッテリ交換時の注意

#### 危険

- 交換する際、バッテリから発生する水素ガスに引火爆発する原因となりますので次の事項を守ってください。
- 火気（タバコの火、グラインダの火花、ストーブの火など）を近づけないでください。
  - バッテリを取付ける場合、金属工具などで①端子と②端子とをショートさせないでください。
  - バッテリ端子に車両のケーブル端子を接続する場合には、しっかりとナットを締めてください。



#### 警告

- バッテリを誤って取扱うと、引火爆発、破裂、液漏れや車両の損傷などの原因となりますので、次の事項を守ってください。
- 車両の搭載バッテリを交換する際には、車両のエンジンを止めエンジンキーを抜いてください。
  - スマートキーの場合はエンジンスイッチをLOCK位置またはOFF(切)にしてください。
  - ライトなどのスイッチがON（入）の状態では、バッテリの取外し、取付けをしないでください。
  - バッテリ端子に車両のケーブル端子を接続する場合には、しっかりとナットを締めてください。
  - バッテリの交換は、下記（3. 3～3. 4項）の順番で行ってください。
  - 車両側のケーブル端子をバッテリに取付ける際、①端子と②端子を逆に接続しないでください。
  - バッテリ端子を改造したり、バッテリの液口栓の排気孔をふさがないでください。

#### 注意

- バッテリを誤って取扱うと、火災や液漏れによる腐食の原因になる恐れがありますので、次の事項を守ってください。
- バッテリに電気機器を直接接続しないでください。
  - バッテリは、取付け金具でしっかりと固定してください。
  - バッテリの端子には、グリース以外の油脂を付着させないでください。
  - バッテリには、傾けたりせずに水平状態で取扱い、傾斜面には取付けないでください。
  - バッテリに遮熱板が取付けられている場合には、バッテリ交換後元どおりに取付けてください。
  - バッテリの端子カバーは、バッテリ交換後に元どおりに取付けてください。

メモリー機能のある電子機器（パワーシートなど）が装備されている車両は、バッテリを取り外すとメモリーが消えることがあります。バッテリ交換前には、車両の取扱説明書をお読みください。

メモリーバックアップのために予備電源を車両回路に接続（一般にシガーライタへ接続）した場合は、バッテリを取り外すときに車両側の①ケーブル端子を②極（車体は②極になっています）に接続させないでください。

万一、メモリーが消えた場合は、車両販売店などにご相談ください。

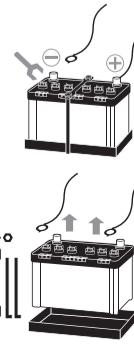
**バッテリ交換時の注意事項**

- バッテリ交換の際は、必ず車両の取扱説明書、整備書に従って作業を行ってください。
- 車種によっては、専用ツールでのセットアップ（※1）が必要となる場合があります。（※1）車両コンピュータ（ECUなど）の初期化のこと

#### 3.3 古いバッテリの取外し

- バッテリの搭載状態（①、②端子の位置）を記録しておいてください。

②初めに車両側の①ケーブル端子（2個搭載の場合も）のナットを緩め、バッテリの②端子からケーブル端子を外してください（右図）。



③次に車両側の①ケーブル端子に被っている端子カバーを外して、端子のナットを緩めてバッテリ①端子からケーブル端子を外してください。

④車両に電解液面センサーが装備されている場合は、装着位置を記録（バッテリのどの場所に装着されていたか）し、バッテリから外してください。外した電解液面センサーには、電解液が付着しているまで、車両に触れないよう布などで覆ってください。

⑤バッテリ取付け金具を緩め、バッテリを水平状態で取外してください（右図）。

※取外したバッテリは、6項「使用済みバッテリの処置」に従って処理してください。

※ケーブル端子が腐食している場合は、ワイヤーブラシ、目の細かいサンドペーパーなどで清掃してください。

- 3 -

### 軽トラック バッテリ保証書

このたびは、当社軽トラック用バッテリをお買い上げいただきありがとうございます。保証期間内に正常な使用状態で不具合が生じた場合は、本保証書をバッテリお買い上げ店へバッテリとともにご提示ください。調査の上、裏面記載の保証規定により保証させていただきます。なお、お買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）以外での保証はできませんのでご注意ください。

お買い上げ機種	軽トラック 40B19R/L		
保証期間 (お買い上げいただいた日から)	24カ月又は走行距離4万kmに早く達した時まで		
お客様 ご住所	[ ]	〔 〕	〔 〕
お客様 お名前	フリガナ	お買い上げ日	年 月 日
お買い上げ販売店名	店印	製造ロットNo. (印字表記記入)	車種
受付年月日	年 月 日	プレートNo.	搭載時走行距離 km
実使用月数	カ月	実使用走行距離 km	実使用走行距離 km

注) 1. 本保証書欄内が未記入のもの、店名、店名印のないものは無効です。

2. 本保証書は再発行しませんので、大切に保管してください。

3. 保証書の受領、複写又は転記により取得するお客様の個人情報は、商品不具合についてお客様に連絡を差し上げる必要があるときの連絡業務の目的で使用します。

当該業務が終了後、お客様の個人情報は漏洩等が無きよう速やかに破棄致します。

尚、個人情報を除いた情報は、商品の品質管理のための分析用データとして弊社内で使用することがあります。以上、ご承認おきくださいますようお願い申しあげます。

4. 製品不具合や保証に関するお問い合わせはお買い上げ店にご相談ください。

### エナジー・ワイズ株式会社

製品に関する問い合わせは、下記にご連絡ください。

エナジー・ワイズ自動車電池コールセンター

TEL: 0120-513-573 (フリーダイヤル 携帯電話可)

(受付: 月～金 (年末年始、GW、夏季休業等を除く) 9時～17時30分)

〒369-0297 埼玉県深谷市国2200

製品情報は下記サイトでご確認いただけます。

https://www.energy-with.com

### 2. 使用開始前の取扱い

バッテリの持ち運び、保管、使用開始前には、次の事項を確認してください。

#### 危険

- バッテリは水素ガスが発生しますので、持ち運びまたは保管中には火気を近づけないでください。また、保管は火気のない風通しの良い場所とし、①端子と②端子とを金属工具などでショートさせないでください。引火爆発の原因となります。
- 子供などが手を触れない場所に保管してください。バッテリの電解液に触れる、失明や、やけどの原因となります。
- バッテリには、電解液が入っています。持ち運びまたは保管中などに投げたり、落したり、横倒しにしたり、傾けたりするとバッテリから液漏れし、失明や、やけどあるいは衣服の損傷や周囲を腐食させる原因となります。



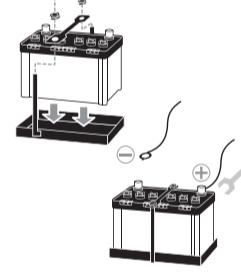
#### 注意

- 持ち運びまたは保管中などに転倒、破損により電解液が流出した場合は、重曹（重碳酸ソーダ）などで中和（泡がでなくなるまで）した後、多量の水で洗い流してください。腐食または汚染の原因になる恐れがあります。
- バッテリは重量物ですので持ち運びの際には、バッテリの底部、または「さげ手」がある場合は「さげ手」の中央部を持ち、バッテリを傾けないようにしてください。
- バッテリに「さげ手」がある場合、「さげ手」を持ってバッテリを振り回さないでください。振り回すと「さげ手」が外れてバッテリが落下し、けがの原因になる恐れがあります。
- 使用開始前に、バッテリにヒビ、割れ、欠け、液漏れのないことを確認してください。
- 保管の際は、次のような場所としてください。バッテリの性能劣化や破損、液漏れやけがの原因になる恐れがあります。

- 2 -

### 3.4 新しいバッテリの取付け

(1)バッテリ取付け台に異物のないことを確認し、取外したバッテリの①、②端子が同じ位置になるように、新しいバッテリを取付け台に載せ、取付け金具でガタツキがないように固定してください（右図）。



バッテリに「さげ手」がある場合、バッテリを所定の位置にセットし、取付け金具で固定する前に「さげ手」を取り外せます。

(2)古いバッテリに液面センサーが装着されていた場合は、元の位置に装着してください。

(3)車両側の①ケーブル端子をバッテリ②端子に取付け、緩みがないようナットを締付けてください（右図）。

(4)次に車両側の②ケーブル端子をバッテリ①端子に取付け、緩みがないようナットを締付けてください。

(5)ケーブル端子の金属部のさび止めに、グリースを薄く塗布すると防食上効果的です。

(6)車両側の①ケ

## 保証規定

### 1. 保証内容

表面の保証期間内に正常な使用状態で不具合が生じた場合は、本保証書をバッテリお買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）へバッテリとともにご提示ください。製品を調査した上で、お買い上げ機種または、お買い上げ機種相当品と交換させていただきます。それ以外の責はご容赦ください。この場合の保証期間は、最初のお買い上げの日から累積起算とします。ただし、下記の適用除外事項に該当する場合は対象外となります。

### 2. 適用除外事項（下記の場合は保証対象外です。）

- (1) お買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）以外のお店に保証を依頼した場合。
- (2) 保証書の提示がない場合、または必要事項が記入されていない場合。
- (3) 天災・火災・海難・動乱などによる故障の場合。
- (4) 自動車のエンジン始動用以外の用途に使⽤したり適合外の自動⾞に使⽤した場合。
  - (例) a. 自動⾞以外の機械の始動に使⽤した場合。
    - b. 非常用電源を目的として使⽤した場合。
    - c. 外国製自動⾞に使⽤した場合。
    - d. アイドリングストップ⾞に使⽤した場合。
- (5) 下記の用途に使⽤された場合。
  - (例) a. タクシー、ハイヤー、宅配便に使⽤した場合。
  - b. レースを目的としたスポーツ、競技用途の自動⾞に使⽤した場合。
  - c. 緊急⾞両に使⽤した場合。（救急⾞・消防⾞・警察⾞両など）
  - d. フォークリフトなどの重量物運搬を目的とした産業用⾞両に使⽤した場合。
  - e. 農業用機械及び⾞両に使⽤した場合。
  - f. 建設用機械及び⾞両に使⽤した場合。
  - g. 船舶、航空機、鉄道⾞両など自動⾞以外に使⽤した場合。
- (6) 手入れ不十分、使用者の過失または事故によって生じたと認められる場合。
  - (例) a. ◎端子を逆に接続して充電した場合。
  - b. バッテリーメーカーの指定する精製水以外のものを注入した場合。
  - c. 補充電時に過充電したり、放電状態のまま放置させた場合。
  - d. 交換や日常点検時に電着、ふた、または端子を変形・破損させた場合。
  - e. 液面を適正に管理しなかった場合（過補水による液漏れや補水不足による液涸れなど）。
  - f. 交通事故による破損、故障、機能低下の場合。
  - g. 雨水や洗車時の水の浸入により液漏れが生じた場合。または水没させた場合。
  - h. 車両搭載のまま長期間使用せず、コンピュータメモリ負荷（暗電流）により放電した場合。
  - i. バッテリ本体に修理、改造を加えている場合。
- (7) 使用上の酷使または自動⾞自体の原因による場合。
  - (例) a. レギュレーターの設定電圧が基準値を越え、過充電となった場合。
  - b. 自動⾞の電装品などの故障・欠陥により生じた場合。
  - c. バッテリの搭載位置、サスペンション、充電装置などに改造が加えられた⾞両で使⽤された場合。
  - d. 後付装置により、アイドリングストップを実行して使⽤された場合。
  - e. 標準装備以外で過負荷になる電装品を自動⾞に取り付けて使⽤した場合。
- (8) 不具合の発生したバッテリを搭載した⾞両のチェックができない場合。
- (9) 補充電により回復するもの。（充電により回復した場合の充電代は有料となります。）エンジン始動が可能なものの。
- (10) 自動⾞を譲渡された等により保証書記載のバッテリの購入者と所有者が一致しない場合。保証書記載の⾞両以外の自動⾞に搭載された場合。
- (11) 取扱説明書記載の指示どおりに取扱わなかった場合。

### 3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

### 4. 3 取付け金具・ケーブル端子の緩み・接続ケーブルの外観点検

- (1) 取付け金具の点検  
バッテリが取付け金具でしっかりと固定されているか点検してください。緩んでいる場合はバッテリがしっかりと固定されるまで、取付け金具のナットを締めなおしてください。
- (2) ケーブル端子の緩み・接続ケーブルの点検  
バッテリ端子と車両側のケーブル端子との接続が緩んでいる場合は、しっかりと固定されるまでケーブル端子のナットを締めなおしてください。接続ケーブルが擦り切れたり、亀裂がないか、液口栓をふさいでいないか確認してください。

— 5 —

### 5. 1. 1 ブースターケーブルの接続方法

ブースターケーブルは車両の取扱説明書の接続方法に従って正しくご使用ください。

### 5. 2 バッテリの回復充電（補充電）

#### △ 危険

- 充電器でバッテリを充電する場合には、充電器に添付の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。取扱いを誤ると、バッテリの引火・爆発の原因となります。
- 充電する際には、火気を絶対に近づけずに風通しの良い場所で行い、また、液面がUPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間にあることを確認し、LOWER LEVEL 以下の場合は、UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間まで補水してください。LOWER LEVEL 以下のまま使用・充電すると引火・爆発の原因となります。また、有毒ガスが発生する恐れがあります。
- 充電器の電源がO N（入）の状態で、充電クリップをバッテリに接続しないでください。スパークが発生して引火・爆発の原因となります。
- 充電中に電圧クリップの取外しは、絶対にしないでください。バッテリの引火・爆発の原因となります。
- 充電器に電圧の切替スイッチがある場合には、充電するバッテリの電圧に設定してください。誤った電圧で充電すると、充電器の過熱、発火やバッテリの引火・爆発の原因となります。
- バッテリを取り扱うときは、保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液によって、失明ややけどをする恐れがあります。



#### △ 警告

- バッテリを車両から取外して充電する際には、3項「バッテリ交換時の取扱い」に従って取外し、取付けを行ってください。手順を誤ると引火・爆発の原因となります。
- バッテリを車両に搭載したままでの充電は、引火・爆発や車両・機器損傷の原因となります。やむを得ず、車両に搭載したまま充電する場合には、バッテリに接続されている車両側の○ケーブル端子を取外してください。
- 充電器に接続する際には、④充電クリップをバッテリの④端子に、次に④充電クリップをバッテリの④端子にしっかりと接続してください。逆に接続すると、引火・爆発や車両・機器損傷の原因となります。
- 充電電流はバッテリの要項表の充電電流以下の値、急速充電の場合は要項表の充電電流の8倍以下の値に設定してください。充電電流が過大な場合には、液漏れや液涸れによる引火・爆発の原因となります。



#### △ 注意

- 充電時の電解液温度は45°C以下、急速充電の場合では55°C以下にしてください。変形や液漏れの原因になる恐れがあります。電解液温度が高くなると、バッテリが劣化し寿命が短くなります。
- 充電時にはバッテリの液口栓が外せるものは取外し、バッテリから発生するガスが拡散しやすいようにしてください（右図）。液口栓には電解液が付着していますので、皮膚や衣服に付かないでください。電解液によって失明ややけどをする恐れがあります。
- バッテリには希硫酸を補充しないでください。バッテリの寿命が短くなります。

### 5. 2. 1 充電方法

- (1) 充電器の電源と電流調整ツマミがO F F（切）になっていることを確認し、充電器の電源コードをコンセントに差し込んでください。充電器に電圧の切替スイッチがある場合には、充電するバッテリの公称電圧と同じ電圧に設定してください。
- (2) 2個のバッテリを同時に充電する場合は、24V用の充電器を使用して直列に接続してください。
- (3) 充電クリップをバッテリの④端子に、次に④充電クリップをバッテリの④端子に確実に接続してください。タイマー付きの場合は、充電時間を充電器の取扱説明書に従って設定し、急速充電では30分以内にしてください。
- (4) 充電器の電源をO N（入）にしてください。次に、電流調整ツマミを回して充電電流をバッテリの要項表の充電電流以下の値に調整してください。充電中に電解液温度が45°Cを超える場合は、充電電流を下げるか充電を一時停止してください。急速充電の場合、電解液温度が55°Cを超える時に同様の処置をしてください。
- (5) 充電完了の目安は、充電時間約5~10時間でバッテリの各セルから盛んにガスが発生している状態です。電圧計、比重計をお持ちの場合には、充電中に端子電圧が15.0V以上、電解液比重が1.270 (20°C) 以上になっていることを確認してください。
- (6) バッテリの④端子から④充電クリップを外し、その後④充電クリップを取外してください。
- (7) 充電器の電源コードを、コンセントから外してください。
- (8) バッテリの電解液面が UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間にありますことを確認し、液口栓を緩みがないようしっかりと締付けてください。バッテリの外観が汚れている場合には、水洗いするか湿った布で清掃してください。

— 7 —

### 4. 4 電解液面高さの点検と補水

#### (1) バッテリの側面から液面点検する場合

水で湿した布で液面線の周囲を清掃し、液面が UPPER LEVEL (最高液面線) と LOWER LEVEL (最低液面線) の間にありますことを確認してください。乾いた布で清掃すると静電気により引火・爆発する原因となります。

液面が UPPER LEVEL よりも LOWER LEVEL に近い場合は、液口栓を緩めて取外し、直ちに UPPER LEVEL まで精製水（例：市販のバッテリ補充液など）を補充してください。

補充後は、液口栓をしっかりと締めてください。

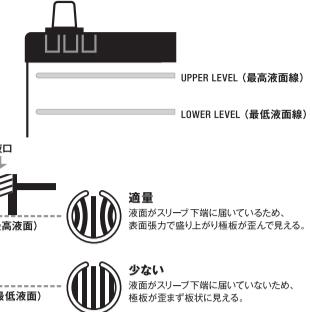
#### (2) バッテリの側面から液面点検ができない場合

バッテリ上面にある液口栓を外して注液口をのぞき、液面点検してください。スリーブに液面が届いていない時は、必ずスリーブの下端まで精製水（例：市販のバッテリ補充液など）を補充してください。

#### ★アドバイス

万一、UPPER LEVEL またはスリーブの下端まで越えて補水してしまった場合は、UPPER LEVEL またはスリーブの下端までスリーブなどで電解液を抜き取ってください。抜き取った電解液は、重曹（重炭酸ソーダ）などで中和した後、多量の水で洗い流してください。または、バッテリメーカーにご相談ください。

バッテリ内に白い沈殿物及び電解液の白い濁りが認められる場合がありますが、品質には問題ありません。



### 4. 5 車両を長期間使用しない時の処置

車両を長期間使用しない場合は、3. 3 項「古いバッテリの取外し」に従ってバッテリを車両から取外して風通しのよい火気のない屋内に保管し、端子電圧 12.5V 以下または電解液比重 1.240 (20°C) 以下を目安として 5. 2 項「回復充電」に従って充電を行ってください。

バッテリを接続したままにすると、時計やコンピュータのバックアップに少しづつ電気を消費しますので、車載のまま保管する場合もバッテリの◎端子から車両のケーブル端子を外しておくことをお薦めします。ただし、バッテリの接続を外しますと、車両のメモリー機能が消去されますのでご承知おきください。

### 5. バッテリ放電時の処置

車両のライトなどの消し忘れや車両を長期放置したりした場合には、バッテリが放電してエンジン始動が困難になることがあります。このような場合の緊急処置は、次の事項に注意して行ってください。

#### 5. 1 ブースターケーブルによるエンジン始動

#### △ 危険

- 救援車を依頼してブースターケーブルでエンジンを始動させる場合には、車両及びバッテリ添付の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。取扱いを誤ると、引火・爆発や車両損傷の原因となります。
- 火気を近づけないでください。バッテリから発生する水素ガスに引火・爆発する原因となります。
- 保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリの電解液によって失明ややけどをする恐れがあります。

#### △ 警告

- ブースターケーブルの取付け、取外し時には、救援車のエンジンを止めてください。ケーブルや衣服などが冷却ファンに触れたり、ベルトに巻き込まれて、けがの原因となります。
- 最後のクリップ接続時にスパークが発生しますので、ケーブルクリップは、バッテリから離れているエンジン本体などの金属部分に接続してください。バッテリからの水素ガスに引火・爆発する原因となります。
- ケーブル接続の際は、バッテリの④端子と④端子をケーブルクリップでショートさせないでください。スパークによる引火・爆発の原因となります。
- 救援車のバッテリは、バッテリあがり車と同じ電圧（12V 仕様か、24V 仕様かを確認）で同等の性能ランクのバッテリを使用してください。取扱いを誤ると、引火・爆発や車両損傷の原因となります。
- ブースターケーブルはバッテリの性能ランクに適したものを使い、ブースターケーブルに、破損および腐食などの異常がないことを点検してください。ケーブル焼損の原因となります。
- ケーブルクリップは、緩みがないようにしっかりと固定してください。
- 救援車とバッテリあがり車の車体を接触させないよう注意してください。

\*エンジンルーム内にバッテリがない車両は、その車両の取扱説明書に従ってください。また、エンジンルーム内にバッテリが搭載されていない乗用車は、救援車には向きません。

\*エンジン始動後は速やかにガソリンスタンド、バッテリお買い上げ店またはカーディーラーなどで点検を受けてください。

— 6 —

### 6. 使用済みバッテリの処置

#### △ 危険

- 使用済みバッテリは、まだ電気エネルギーが残っています。金属工具などでバッテリの④端子と④端子とをショートさせたり、火気を近づけたりしないでください。スパークにより引火・爆発や火災の原因となります。
- 使用済みのバッテリは、子供などが手を触れない場所に保管してください。電解液の付着により失明や、やけどの原因となります。
- バッテリを分解、改造、破壊しないでください。液漏れ、爆発などの原因及び失明、やけどの原因となります。

#### △ 警告

- 使用済みバッテリを横倒しのまま保管しないでください。電解液の流出により周囲を腐食または汚染するほか、漏電し火災の原因となります。

#### △ 注意

- 使用済みバッテリは原材料をリサイクルします。そのまま破棄せず、新しいバッテリを購入されたお店にご相談ください。

### ■ バッテリの寿命

寿命とは、使用中にその容量が低下してきた状態をいいます。

★寿命は、自動車の使い方や点検保守の頻度などで変わってきます。

(例) ①自動車の使用頻度（走行距離が少なくても、多くても影響される）

● 充電不足の状態（エアコン、オーディオなどの電気機器の使用頻度が多い）

（ファンベルトの緩み）（オルタネーターの故障）

● 日常点検の不備（バッテリの電解液面点検時などに、補水を怠り、液涸れになったもの）

● 保守の不備（ランプの消し忘れなどによりバッテリあがりを起こした場合）

★バッテリの寿命末期には、次のような現象が出てくる可能性があります。

● スターテーモータの回転が、弱くて鈍い。

● アクセルの踏み方で、ヘッドランプの明るさが変る。

● 電解液の減り方が早く、電解液面の高さや電解液比重がばらつく。

これらの現象が現れた場合には、5.2 項によりバッテリを補充電してください。

補充電しても性能が回復しない時は、バッテリの交換をおすすめします。

### 要項表

型式※1	充電電流(A)※2
40B1	